

「おだわらデジタルミュージアム」 創設プロジェクト

～小田原市収蔵文化財の包括的デジタルアーカイブの構築～

小田原市文化部生涯学習課
郷土文化館係

吉野 文彬



1 おだわらデジタルミュージアムとは

おだわらデジタルミュージアムは、本市が収蔵している文化財資料を所管している各課館が連携して創設したポータルサイトです。スマートフォンやタブレット等からアクセスすることで、本市が収蔵している資料を、「いつでも」「誰でも」「簡単に」検索・閲覧することができます。考古・歴史・美術・民俗・文学・自然などの分野の資料をデジタル情報として後世まで確実に継承するとともに、学校教育や市民の生涯学習活動、観光振興としての活用も期待しています。

2 取り組みの背景

本市では、収蔵施設の慢性的な不足と、増え続ける未整理の資料や経年劣化が進んだ資料の対応に苦慮していました。2022年（令和4年）4月「博物館法の一部を改正する法律」が成立し、博物館が果たすべき役割の一つとして、「博物館資料

のデジタルアーカイブ化」が付け加えられ、更に、国の「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用できることとなりました。これらを絶好の機会としてとらえ、さまざまな資料を収蔵している施設等が連携し、包括的なデータベースの構築やポータルサイトを創設する、「小田原市デジタルミュージアム創設事業」を立ち上げました。

3 おだわらデジタルミュージアムの概要

「おだわらデジタルミュージアム」は、資料のデータを蓄積するデータベース（博物館という収蔵庫）と、データベース内の資料等を見やすく閲覧するためのポータルサイト（博物館という展示室）の、大きく2つに分かれています。まず、データベースは、考古、歴史、民俗、美術、自然等の分野ごとに構築しつつも、分野を超えた横断的な検索も可能としています。今後は、ジャンプサーチ等の外部データベースや都市

OSを介した観光アプリ等との連携も図っていく予定です。

次に、ポータルサイトでは、本市が収蔵している資料を閲覧することができます。個々のコンテンツでは、高精細・3D・VRなどの先進的な撮影手法を駆使し、見せ方を工夫しました。また、学校教育や市民の生涯学習活動、観光振興の場面でも活用できるように、コンテンツの充実を図っています。

ポータルサイトのコンテンツとして、(1)「厳選！小田原市の収蔵資料」(2)「小田原のいまむかし」(3)「カラーでよみがえる小田原」(4)「デジタルアーカイブ」(5)「キッズミュージアム」(6)「文化財でまち歩き」などがあります。

(1)「厳選！小田原市の収蔵資料」

本市の学芸員が厳選した小田原市が収蔵する資料を撮影種別（高精細・3D・ObjectVR）でまとめた特別コンテンツと「中里遺跡」や「北条五代」など、テーマごとのコンテンツを設けました。特に3D撮影

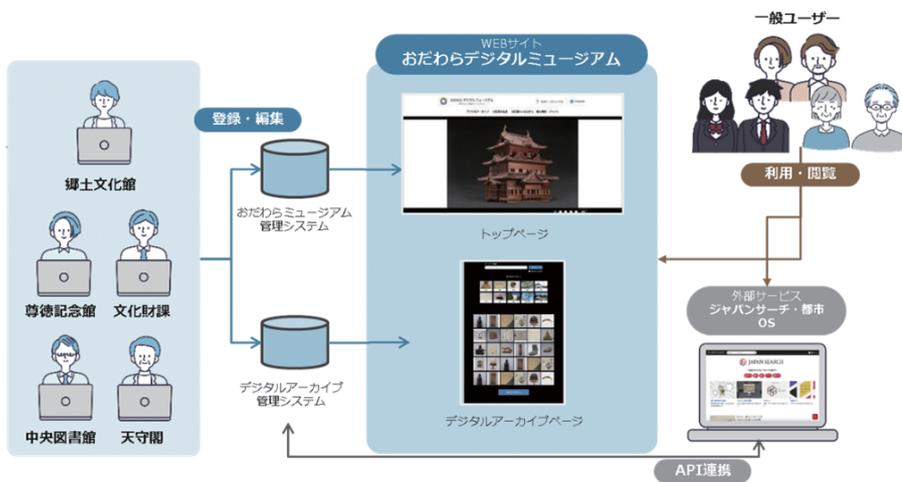


図1 「おだわらデジタルミュージアム」システム概要図



図2 3D撮影をした縄文土器

した天守閣の模型や土器は、普段は見る
ことができない内側や裏側まで、自由自在
に動かしながらかん覧することができます。

(2) 「小田原のいまむかし」

郷土文化館が2021年(令和3年)に発行
した『郷土文化館常設展示図録 小田原
の歴史と民俗』のコンテンツをはじめ、中
央図書館が所蔵している16mmフィルムな
どの映像・音声記録や解説動画などの関
覧ができます。また、「小田原ゆかりの人物」
「小田原歴史年表」「小田原地方新聞記事
目録」では、キーワード等での検索が可能
となっています。

(3) 「カラーでよみがえる小田原」

かつての小田原を写したモノクロ写真を
人工知能(AI)の技術によってカラー化を
したコンテンツです。「まちなみ」「小田原
城跡」「観光」「鉄道」「漁業・水産加工」「大
災害」とテーマを設けて60点ほどの写真を
掲載しています。

(4) 「デジタルアーカイブ」

本市が収集している資料をデータベース
化しました。ここではクラウド型の取藏品
管理システムを導入しています。考古・歴史・
民俗・美術・写真・文学・自然・建造物・
天然記念物・史跡をカテゴリー別に分類し
ました。登録している資料の一部は、本
市観光課が運営をしている観光アプリ「小
田原さんぽ」と連携をしています。これは、
市内の観光スポット情報やAIによるモデ
ルコースの提案などができるアプリケー
ションであり、観光振興にも貢献できる取
組みです。

(5) 「キッズミュージアム」

子ども向けコンテンツとして、自主的な
学習への支援や学校教育の場で役立つ情
報や資料を公開しています。郷土文化館
が主催している子ども向け事業である「磯
の生物を観察しよう」や「土器製作体験教

室 ときどきタイムトラベル」を紹介するペ
ージや、「デジタルミュージアムで遊んでみよ
う」など、子どもたちがデジタルミュージア
ムに興味を持ってもらうためのコンテンツ
も公開しています。さらに小田原市教育研
究所が発行している副読本『わたしたちの
おだわら』『郷土読本小田原』『小田原の
自然』のコンテンツも公開しており、教
育現場での活用も期待されています。

(6) 「文化財でまち歩き」

このコンテンツは、「おだわら文化財マッ
プ」と「おだわらまち歩きツアー」で構成さ
れています。前者は、本市文化財課が
2022年(令和4年)に発行した『小田原の
文化財』と、郷土文化館がこれまで地域資
源として調査を進めてきた成果をマッピ
ング可視化しています。今後、郷土文化館
で活動をしている「小田原の石造物を調べ
る会」などの学芸ボランティアの活動で得
られた成果も随時反映していくことを予定
しています。また後者は、「おだわら文化
財マップ」に掲載されている内容をもとに
市内散策のモデルコースを設定しており、
観光面での利活用も期待しているところ
です。

(7) その他

関連リンク、サイトマップ、利用規約な
どを閲覧可能です。特に「おだわらデジ
タルミュージアムについて」では、「おだわ
らデジタルミュージアムができるまで」など
の創設に至るまでのエピソード動画を関
覧できます。また、各コンテンツについてはバ
リアフリー化を進め、文字の拡大表示や
読み上げアプリへの対応を行っているほか、
Googleによる自動翻訳機能を採用し、英
語や中国語をはじめとする多言語への翻
訳も可能としています。

おだわらデジタルミュージアムは、2023
年(令和5年)3月末にオープンしてから、



2024年1月末まで約14万人のアクセスがありました。これは当初1ヶ月に見込んでいたアクセス数を大きく上回る実績で、閲覧をきっかけにした掲載内容や掲載写真の二次利用等に関する問い合わせも増加しています。また、他自治体からの導入に関する問い合わせや、講演、執筆依頼も増加しています。

4 おだわらデジタルミュージアム制作の裏側

当該事業では、国の交付金を活用し、年度当初に交付決定されましたが、当該年度内での事業完結が必要で、市議会での予算審議や受託業者の選定等もあり、実質半年しか業務に充てられる時間を確保することができませんでした。

このような状況下で、データベースの基礎となる項目や名称の確認、記載内容の調整などには、最も労力と時間を費やしました。また、収蔵資料全てのデジタル化は難しかったため、デジタル化対象資料の選定にあたっては、劣化が著しく緊急に対応が必要な資料や、デジタル化の際に専門的な知識や技術が求められる資料を優先しました。

デジタル化の手法については、受託業者とその都度協議を行いながら、資料ごと

に最も適した方法を決定し、作業を進めました。なかでも特に神経を使ったのは、刀剣の撮影でした。刀剣は、撮影前に油抜き等の作業が必要で、専門家立会いのもと作業を行ったうえで、細心の注意を払って撮影に臨みました。また、江戸城築城の際に、石材を切り出してから、船で運び出すまでの様子を描いた「石切図屏風」では、高精細撮影を行ったうえで、CGの技術を用いてアニメーション化し、効果音などを加えた上で公開しています。

5 まとめ

現在の「おだわらデジタルミュージアム」は、完成形ではありません。デジタル化が済んでいない資料もまだ数多くあり、全

ての資料のデジタル化やコンテンツの追加・更新など、今後も継続して取り組むべき課題が残されています。博物館法の改正により「資料のデジタルアーカイブ化」が博物館の果たすべき業務の一つとなったことは、今後の博物館DXを推進していく契機であると言えます。

最後に、この場をお借りし、「おだわらデジタルミュージアム」の創設、そして第17回ベストプラクティス賞の受賞についてご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。皆様にとりまして、本市の取り組みが今後の参考となれば幸いです。



図3 資料撮影の様子

“小田原の宝”を世界に発信

おだわら デジタルミュージアム

Odawara Digital Museum

おだわらデジタルミュージアムとは、小田原市が収蔵している資料を閲覧、検索することができるポータルサイトです

考古、歴史、美術、民俗、文学、自然などのさまざまな分野の貴重な資料をデジタル情報として“いつでも”、“誰でも”、“簡単に”アクセス可能です